

【第28回社会保障審議会少子化対策特別部会】

すべての子育て家庭に対する支援について



わははネット

わははネットの活動を通して見えてきたもの…

NPO法人わははネット

理事長 中橋恵美子

わははネットのこれまでの取り組み



- ◆1998年 育児サークルわはは（輪母）ネット発足
- ◆1999年 地域密着子育て情報誌発行
- ◆2002年 NPO法人化
- ◆2002年携帯電話を使った子育て情報配信サービス開始
- ◆2003年3月 坂出の商店街空き店舗を使って子育てひろば開設
- ◆2004年8月 高松市内の商店街空き店舗を使って子育て広場開設
- ◆2004年8月 「子育て応援タクシー」テスト実施
(06年全国子育てタクシー協会設立)
- ◆2004年9月「子育て応援マンションプロジェクト」スタート
- ◆2006年 食育応援事業おうちデリスタート
- ◆2007年高松市子育て総合情報発信事業受託
- ◆2007年たかまつファミリーサポートセンター事業再委託
- ◆2007年かがわ緊急サポートネット事業立ち上げ支援事業受託
- ◆2009年かがわ子育て支援県民会議事務局受託ほか



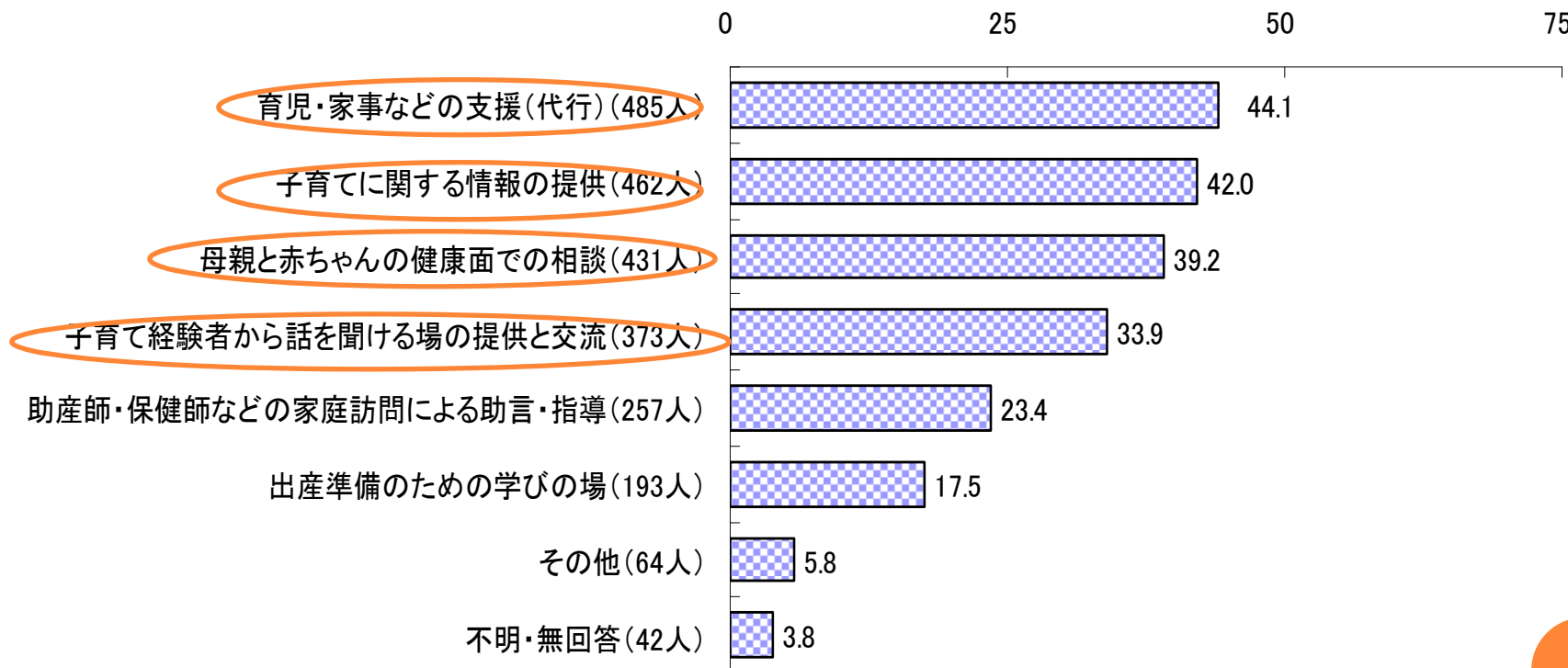
高松市次世代育成支援に関するアンケート調査報告書より (H21.3 高松市発行)



Q妊娠中や出産後のサポートとして特にどのようなサポートが必要だと思いますか。

サンプル数:1,100

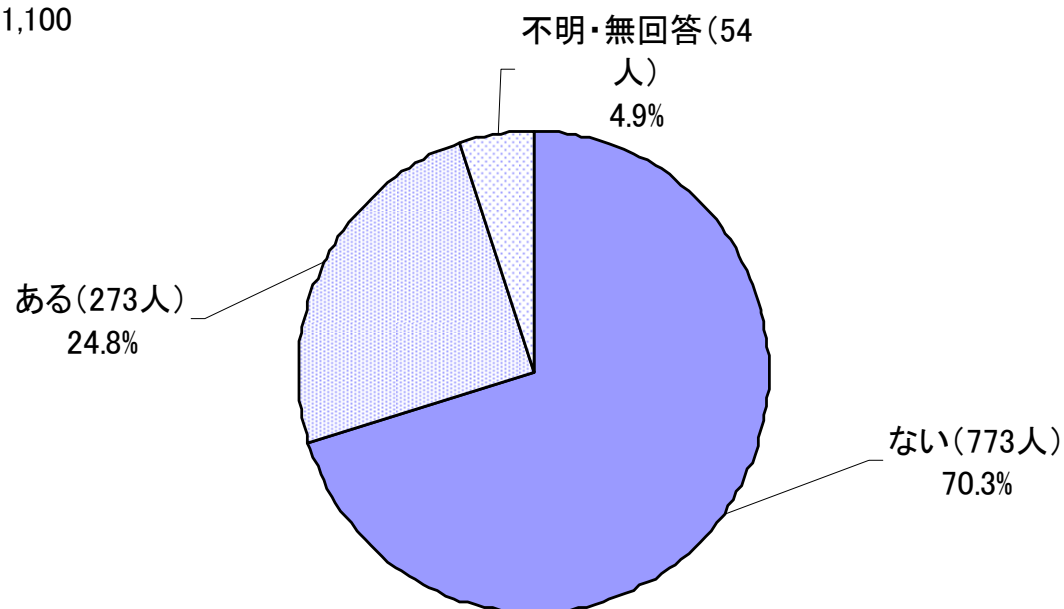
単位:%



ニーズの一番高かった「育児・家事などの支援(代行)」について

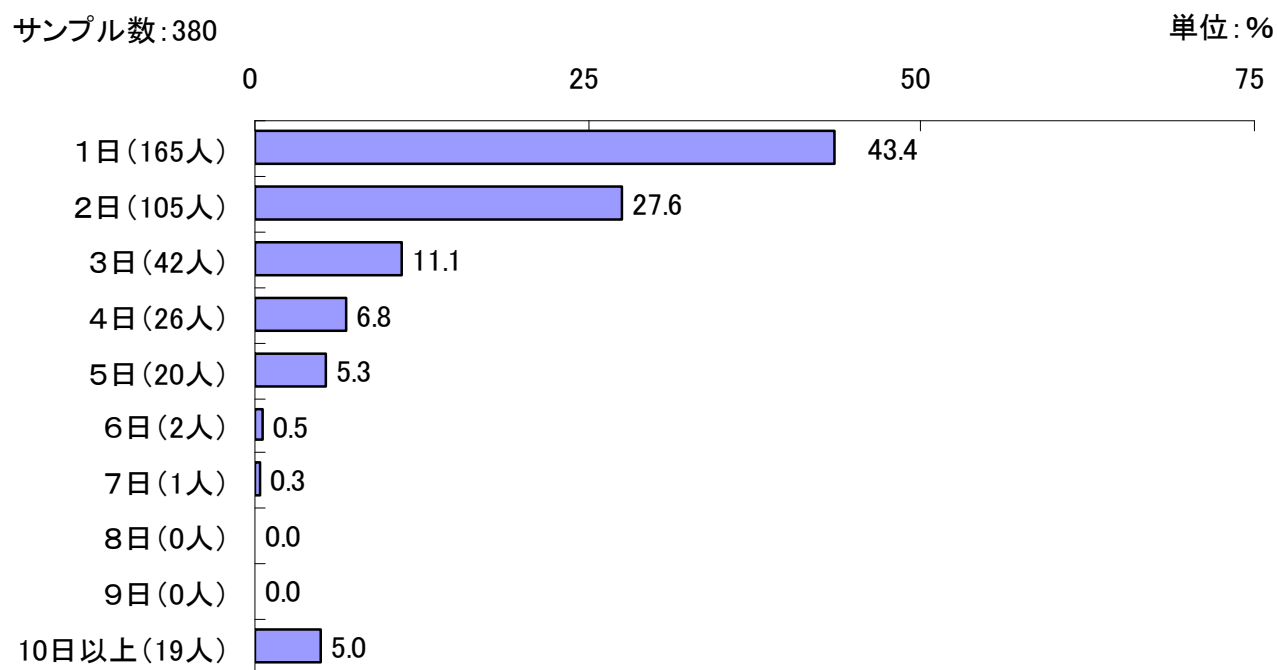
Q この一年間で、私用(買い物、習い事、スポーツ、会合、美容院など)やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や子どもの親の病気、あるいは就労のためお子さんを家族以外の誰かに預けたことはありましたか

サンプル数: 1,100



ニーズの一番高かった「育児・家事などの支援(代行)」について

Q 今は利用していないが、できれば利用したい、あるいは利用日数、回数を増やしたいと思いますか？希望がある方は枠内に数字(希望預かり日数)をご記入ください。



ファミリー・サポート・センターとは…



市内在住(もしくは市内勤務)
6か月～小学6年までの児童のいる家庭。
就労の有無は問わない

市内在住(もしくは市内勤務)
「まかせて会員養成講座」受講修了者

ファミリー・サポート・センターの現状



2007年10月スタート(現在、運営して丸2年)
たかまつファミリー・サポート・センターの現状
※高松市の人口約41万人

毎火曜定休、それ以外は朝9時から午後5時まで。
スタッフ3名(うちローテーションで2名が常勤勤務)

10月現在、

- *まかせて会員(提供会員)453人
- *おねがい会員(依頼会員)637人
- *両方会員91人

合計1181名の会員

活動は毎日少ない日で5組、多い日で15組程度が活動している。

- *活動内容(累計)は
 - 預かり(どちらか宅での預かり)が2317件
 - 送迎が1745件ほか

ファミリー・サポート・センターの現状



* 活動内容(累計)は

- 預かり(どちらか宅での預かり)が2317件
- 送迎が1745件ほか 1日5~15件の活動

預かりの内容

<保護者が仕事をしている場合>

学童保育への迎えから預かりのケース

朝の預かりから保育所等へ連れていくケース

繁忙期のみ夜間預かり(夜10時過ぎまでなど)

土日(保育園・学校が預かってくれない時間)の預かり など

<片働き家庭の場合>

産前産後のフォロー

産前産後の上の子どもの預かり・送迎

リフレッシュ(理由問わず)・母親の習い事等での預かり など

<それ以外の場合・預かれないケース>

それ以外のケースや預かれないケースが増えている

<やっぱり預けない・預けられないケース>

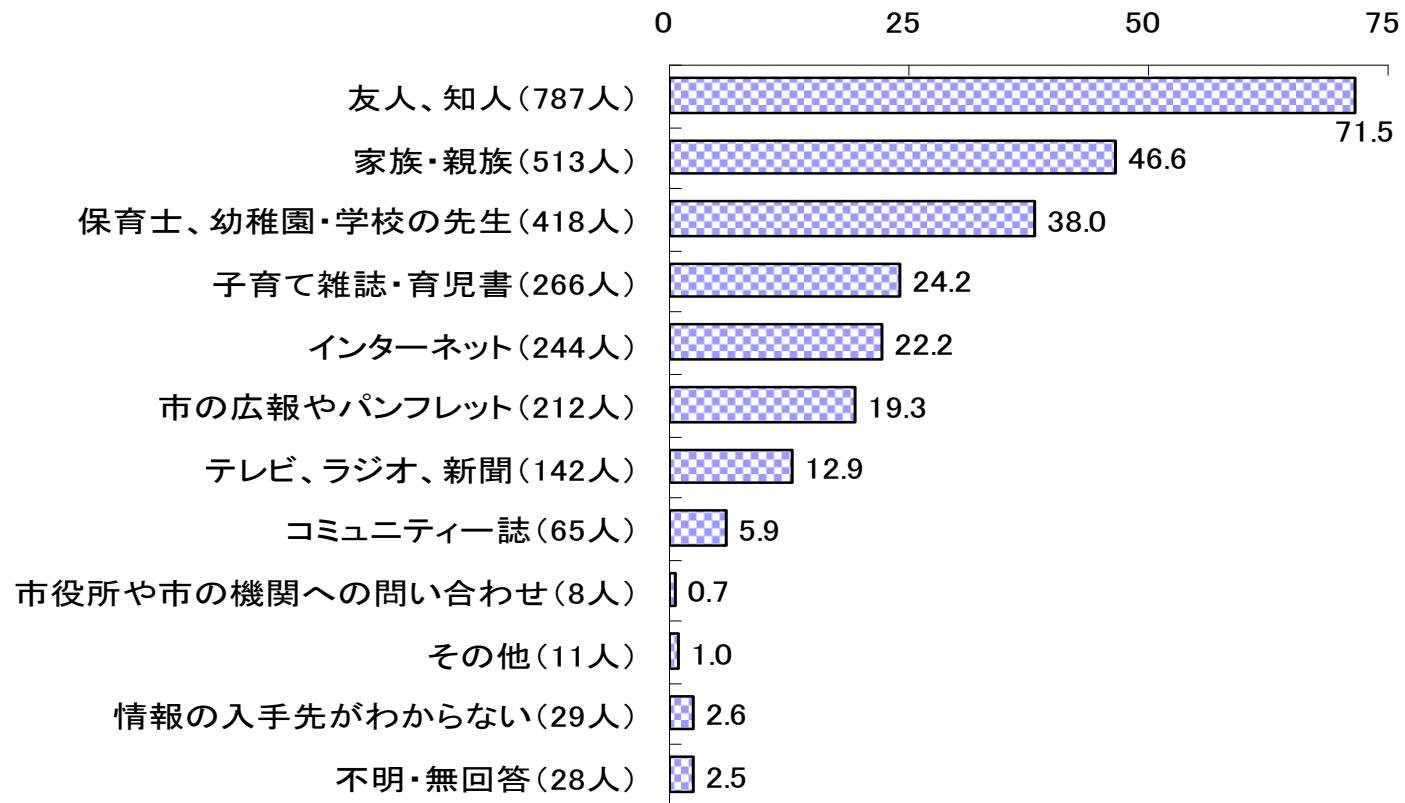
地域子育て支援の現状



Q 子育てに関する情報をどのように入手されていますか？

サンプル数：1,100

単位：%



地域子育て支援の現状

わはは・ひろばの場合

- ・子どもに靴を履かせるタイミングで「実はあのね...」と相談してくる親
- ・表を掃除するときに「ちょっと...」と相談する祖父母や地域の人



- ・他機関との連携の必要性(産院、保健センター、幼稚園等)

地域子育て支援拠点とファミサポ運営を通して感じている、不足している支援形態



- ・役所でも、保育園でも把握できない「グレーな家庭」の多さ
(親としての学びの場がないことも問題かも)
- ・一時預かりなどのサポートが必要かどうかは、短時間の相談や本人ではわからないことが多い
(気軽に預けられる場の不足も問題かも)
- ・様々な機関と連携しながら支援をしないと、隙間ができてしまう状態
(連携するにはファミサポやひろばなどNPOの仕事の外的認知が低いかも)



まず、ファミサポやひろばで起きている日報にもかけない実態を行政が把握できる仕組みが必要

そして、様々な機関と連携できる体制づくりが必要

そのためには様々な機関の特性や担当者の顔がわかり、話ができ、柔軟に動けるコーディネイターの役割の人が市町単位で必要